# 画像取り込み時の 患者情報の整合性確保 - **IRWF**の概要と導入例 -

放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター病院 医療情報課 谷川琢海, 安藤裕

IHE Workshop in 愛知 (2009/08/08)

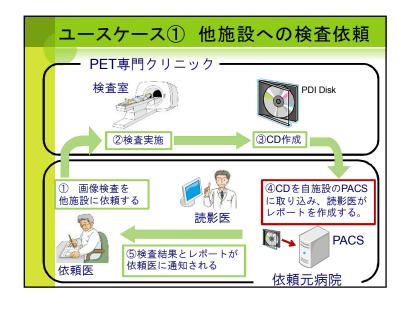
# ○ 患者情報を手入力する時の入力ミス ○ 気付くまでに時間がかかる ○ 修正には手間もかかる ○ 外来診療に影響する場合も多い ■像取込機器 Importer 中継端末 PACS 患者情報の整合性を確認 放医研の運用では、患者情報に不整合があった場合、ここで「照合エラー」となる

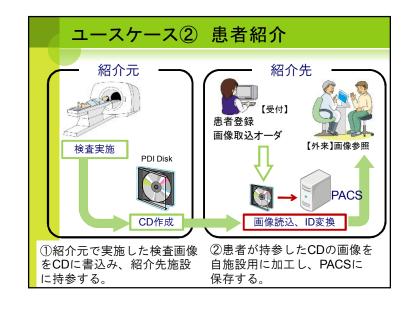
### 画像取込時の患者情報の整合性確保

- Import Reconciliation Workflow: IRWF
- ◎ 画像を取り込む際のワークフロー
  - ⊙ 取込み方法に依存しない
  - 取込み後、自施設のシステムと連携して、 患者情報、検査情報を修正する
  - ⊙ 修正前の情報は記録される
  - 検査状況管理機能(MPPS)、保存確認機能 (Storage Commitment) に対応する









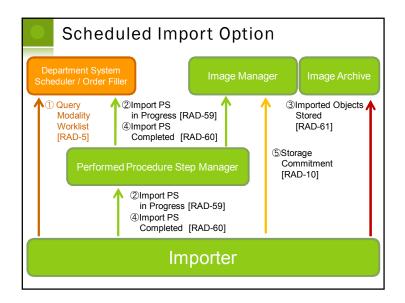


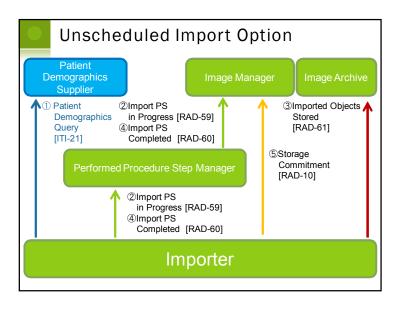
### 運用フローによる2つの選択肢

- ◎ 画像取込みの依頼オーダがある場合
  - Scheduled Import Option
  - 予めオーダリングシステムなどから依頼オーダを 発行し、患者基本情報や依頼情報を取得する
- 画像取込みの依頼オーダがない場合
  - Unscheduled Import Option
  - 患者情報データベース(医事会計システム等)に 直接、患者基本情報を問い合わせ、取得する
- ◆ 患者情報は予め自施設のシステムに登録されていることが必要

### Scheduled Import Optionの まとめ

- ◎ Importerは、ワークリストを検索することで、 患者情報と検査情報を取得する
- 患者情報に基いてWorklistに問い合わせる
- ◎ インポートする画像を指示することができる
  - Scheduled Procedure Step Description
- 取り込み後の処理やメディアの取扱いを指示することができる
  - Scheduled Protocol Step Descriptionに Import Instruction Codeに廃棄、返却等を 記載する





## Unscheduled Import Optionの まとめ

- ◎ Importerは患者情報データベース(PDS)を 検索する
  - Patient Demographic Query
    - HL7によって行われる処理
    - IT インフラストラクチャで定義されている

# 取り込み履歴の記録

- ◎ 画像を取り込んだ履歴は、Contributing Equipment Sequenceに記録される
- 取り込み装置の種類、製造メーカー、 (医療)施設、取込日時などが記録される

### オリジナル情報の記録

◎ 従来、患者情報、検査情報を修正した場合、 過去の情報に上書きされてしまった



- ◎ IRWFでは、オリジナル情報を履歴として保持 する
- ◎ 画像取込みの都度、Original Attribute Sequenceに追加して記録される
- Original Attribute SequenceはDICOM CP-526 で規格化されている

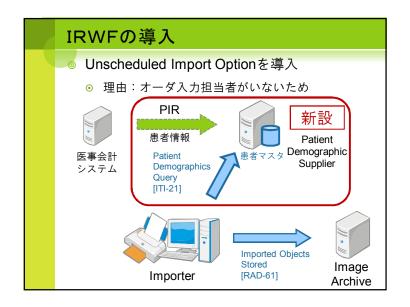
### その他

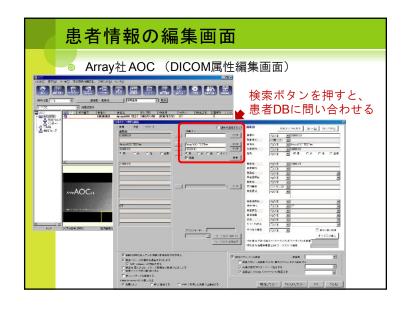
- 1. エラー、例外に関する進捗管理は必須
  - Import PPS Exception Management
- 2. Importerには、請求・材料管理のオプションがある
  - Billing and Material Management











Import Reconciliation Workflow: IRWF

● 取込み後に患者情報、検査情報を自施設用

◎ フイルムやCD読み込みで利便性と正確性が

◎ 画像を取り込む際のワークフロー

⊙ 取込み方法に依存しない

に修正する

大きく向上する

まとめ



